

## 令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・実験や観察などを多く行い、実験室の班を基本とした班活動の時間を多くとる事ができた。小テストを定期的に行うことで生徒の理解度を把握し、理解度の弱い単元の基礎・基本を身に付けるための復習の機会を増やした。
  - ・実験の準備、目的の確認、結果の整理、考察という流れを定着させ、さらにワークシートにまとめることにより、実験内容が明確になり、正しい結果内容を導き出す力を身に付けることができた。
- しかし、日常生活と実際に学習している学習内容をつなげて科学的に思考することができていない生徒が多い。

#### (2) 課題

- ・実験結果のグラフ化や数式処理が課題である。
- ・知識・理解の定着は少しずつ図れているが、それを生かして考察し、自らの言葉で表現することが課題である。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	目標値を上回った。 生命・地球の分野において課題が見られる。	/	/
第2学年	目標値を上回った。 エネルギーの分野において課題が見られる。	目標値を大きく上回った。 小学校の学習内容がしっかり定着している。	/
第3学年	目標値を上回った。 第2学年の学習内容「気象分野」で課題が見られる。	目標値を大きく上回った。 第1学年までの学習内容がしっかり定着している。	目標値を下回った。 小学校の学習内容がしっかり定着していない。

#### (2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を1.8ポイント上回った。 小テスト等で、基礎・基本を身に付けるための	目標値を3.0ポイント上回った。 実験結果のグラフ化や数式処理が課題である。	目標値を6.4ポイント上回った。 興味をもって課題に取り組む生徒が多い。他者

	復習の機会を今後も大切にしていく。		の意見や情報も取り入れて、さらに深く考える場面を増やしていく必要がある。
第2学年	目標値を4.5ポイント上回った。小テスト等で、基礎・基本を身に付けるための復習の機会を今後も大切にしていく。	目標値を0.9ポイント上回った。第1学年から第2学年への変化は、ほぼ横ばいである。実験結果のグラフ化や数式処理が課題である。	目標値を3.5ポイント上回った。与えられた課題に対して、積極的に取り組む生徒をさらに増やしていく必要がある。
第3学年	第1学年から第2学年の上昇が非常に大きい。第2学年から第3学年の上昇もみられる。小テスト等で、基礎・基本を身に付けるための復習の機会を今後も大切にしていく。	第1学年から第2学年の上昇が非常に大きく、第2学年から第3学年の変化は、ほぼ横ばいである。実験結果のグラフ化や数式処理が課題である。	第1学年から第2学年の上昇が非常に大きく、第2学年から第3学年の変化は、ほぼ横ばいである。自ら課題を設定して、積極的に探究する生徒をさらに増やしていく必要がある。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	小テストや補習を行い、個別に力を伸ばせるよう取り組んでいく。また、ドリルなども併用していく。	デジタル教材を用いて、具体的に現象を捉え、考えられるように支援していく。	タブレットを利用して調べ学習を行い、グループ・個人共に深く学習できるような工夫をしていく。
第2学年	タブレットドリルや、小テストなど、問題を解く機会を増やし、知識の定着を図る。	デジタル教材を用いて、現象の理解を深め、抽象的な内容を理解できるよう支援していく。	日常生活にどのような技術が利用され、学習内容をどのように日常生活に活用していくか、具体例を考えさせる。
第3学年	Foams を用いた小テストで知識の定着を図る。	デジタル教材を用いて、想像しにくい事物・現象を分かりやすく提示する。	既習事項を活用した更なる調べ学習を行う。また、タブレットを用いて達成率を自認させ、改善点を分かりやすく提示する。